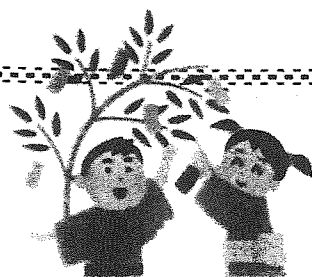


南部営農だより 7月の防除

南部総合経済センター 電話：237-5580 Fax：237-5155

長田営農出張所 電話：259-3233 Fax：258-2867



ふれあい夏の特典

7月4日(土) 9:00~16:00

7月5日(日) 9:00~15:00

会場：JA 静岡市本店

★生活用品・婦人服等々豊富な品揃！

★別紙チラシをご覧ください！

※4日の土曜日購買は夏得フェアの為お休みします

お楽しみ抽選会開催！ご来場お待ちしております。

JAのドリンク好評販売中！！

★ご贈答用にも good！

★電話でご注文 OK！配達いたします

季節限定

熱中対策水（日向夏味）

3250円 500ml×24本

爽やかな甘みと酸味！熱中症対策に！



定番商品も、おすすめです

青色専従者源泉手続きについて

★ 青色申告、専従者給与の上期源泉徴収税の納付期限は、7月10日(金)迄です

★ JAの相談会を利用される方は、各支店の日程をご確認ください

女性部お知らせ

◇ 7/1 (水) 13:30~桃の料理教室 (本店)

◇ 7/3 (金) 13:30~大谷地区役員会 (旧南部営農C)

◇ 7/9 (木) 13:30~営農講座 (長田支店)

◇ 7/10 (金) 13:30~営農講座 (本店)

◇ 7/17 (金) 13:30~南部ブロックモルック大会 (旧南部営農C)

◇ 7/24 (金) 13:30~長田ブロック輪投げ大会 (長田支店)

◇ 7/30 (木) 8:30~特定検診 (長田支店)



✿高田農具展示販売会✿

7月3日(金) 長田支店 7月6日(月) 大谷支店

7月22日(水) 南部総合経済センター

修理も受付けています!!

有害鳥獣伝言板

R8・5月	南部	長田
ハクビシン	2頭	-
イノシシ	1頭	1頭
タヌキ	1頭	-
アナグマ	1頭	-
カラス	-	5羽

久能地区でアナグマの捕獲報告が増えています。

気温の上昇に伴い動物の活動も活発になっています。



茶 (岩田)

一番茶お疲れ様でした！今夏も高温少雨が予想されますので灌水や葉層を確保した整枝を心掛けましょう (整枝時期は6月下旬頃)

1. 病虫害防除

二番茶整枝後	ハマキムシ類	ディアナ SC	5000倍	前日-1回
三番茶 (萌芽期~ 1葉開葉期)	炭疽病・もち病 新梢枯死症	フロンサイド SC 又はダコニール1000	2000倍 1000倍	14日前-1回 10日前-1回
	ウンカ・スリップス	コルト顆粒水和剤	2000倍	7日前-2回
7月中下旬	カイガラムシ	アブロードエースフロアブル	1000倍	14日前-2回

◎注意：農薬購入の際は印鑑をご持参ください

水稻 (石原・深井・望月)

1. 中干し

田植 30~35日後を目安に、18~20本/株の分けつを確保したら中干しを開始する。(7日間程度)

※ 表面が軽くヒビ割れする程度とし、肥沃田や排水不良田は強め、やせ地は弱めに行う。

2. 除草剤 (中・後期剤)

ヒエ・広葉	クリンチャーバス ME	1000ml/10a	展着剤不用
	ロイヤント乳剤 ※1	200ml/10a	ごく浅水※2

※1、クログワイ、ホタルイの発生が多い場合はクリンチャーバスMEまたはMCPソーダ塩を使用

※2、ロイヤントは土壌水分が少ないと、効果が十分に発揮されません。

3. 穂肥

分肥の場合 穂肥：マップ456 (6/1 田植基準)

品 種	早生 (にしきのらめき)	コシヒカリ	中生 (きぬむすめ)	晩生 (にこまる)
時 期	7/12	7/22	7/25	8/1
施用量	2袋/10a	1袋/10a	2袋/10a	2袋/10a

4. カメムシ対策

畦畔の出穂直前の除草は、カメムシ類を本田内に移動させてしまうので、出穂2週間前までに終わらせる。(早生品種では7月20日頃までを目安に実施)

野菜 (石原・深井・望月)

作物	薬剤名	対象病害虫	希釈倍数	収穫前日数	回数
キュウリ ナス トマト	ディアナ (SC)	アザミウマ類 ハモグリバエ ハスモンヨトウ	2500倍	前日	2回
	コテツ (フ) ㊞	ハダニ・サビダニ ハスモンヨトウ ウリハムシ テントウムシダマシ	2000倍	前日	3回 ナス-4回
	トップジン M (水和)	灰色かび病 菌核病	1500倍~ 2000倍	前日	5回
	アフェット (フ)	うどんこ病	2000倍	前日	3回

えだまめ

病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	回数
カメムシ類	スタークル (顆水)	2000倍	7日前	2回

※ 花が終わって莢ができるころカメムシに吸われるので、開花前後に防除が重要

未成熟とうもろこし

病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	回数
アワノメイガ	トレボン (乳)	1000倍	7日前	4回
	プレバソン (フ) 5	2000倍	前日	3回

※ 雄穂の抽出初めから出揃い期、絹糸抽出始めに薬剤を1~2回散布する。

※ ヤングコーンを収穫する場合は「ヤングコーン」または「野菜類」で登録のある農薬を使用

ねぎ

病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	回数
アザミウマ類	ディアナ (SC)	2500~5000倍	前日	2回
さび病	アフェット (フ)	2000倍	前日	2回

落葉果樹（森）

作物	使用時期	病 害 虫	薬 剤 名	使用倍数	使用基準
桃	7月上中旬	カイガラムシ類（収穫後）	アブロード水和剤	1000 倍	14 日－3 回
		シンクイムシ類（発生園）	スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	前日－3 回
		展着剤	ブレイクスルー	10000 倍	－
カイガラムシは孵化直後が一番の防除適期です。（オレンジ色の幼虫が確認できる頃）					
※施肥（収穫後）7月上旬 桃夏ペレット 6袋/10a（樹勢維持のため収穫後早めに施用）					
梨	7月上旬	輪紋病・黒斑病	ベンレート水和剤	3000 倍	前日－4 回
	混用可	ハマキムシ、シンクイムシ	フェニックスフロアブル	4000 倍	前日－2 回
	7月中旬	輪紋病・黒斑病	ストロビードライフフロアブル	3000 倍	前日－3 回
	混用可	ハマキムシ、シンクイムシ	テルスター水和剤	1000 倍	前日－2 回
キウイ	7月下旬	シンクイムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	前日－3 回
	7月上中旬	果実軟腐病	ロブラール水和剤	1000 倍	前日－4 回
イチシク	混用可	カイガラムシ	コルト顆粒水和剤	3000 倍	前日－3 回
	※夏季剪定 ⇒ 摘心・間引きにより棚下の明るさを確保、誘引により翌年の優良な結果母枝を確保				
イチシク	7月上旬	さび病	トリフミン水和剤	2000 倍	前日－3 回
		黒かび病	トップジンM水和剤	1000 倍	7 日－5 回
		アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤㊞	2000 倍	前日－3 回
	7月中旬	カンザワハダニ	ダニコングフロアブル	2000 倍	前日－1 回
柿	7月下旬	黒かび病	ロブラール 500 アクア	1000 倍	3 日－3 回
	7月上旬	落葉病・炭疽病	ペンコゼブ水和剤	500 倍	45 日－2 回
柿		カメムシ（発生した場合）	スタークル顆粒水溶剤	2000 倍	前日－3 回
	7月中旬	カキノヘタムシガ	フェニックスフロアブル	4000 倍	7 日－2 回

柑橘（新出）

青島温州

7 月上中旬	チャノキイロアザミウマ	キラップフロアブル	2000 倍	21 日－2 回	混用可
	黒点病	エムダイファー水和剤	600 倍	60 日－2 回	
	カイガラムシ類	トランスフォームフロアブル	2000 倍	前日－3 回	

・エムダイファー水和剤については、極早生みかんでは収穫までの日数（60 日）に注意する。

スルガエレガント、中晩柑

7 月最上旬	かいよう病	IC ボルドー412	50 倍	－	単体使用
7 月中旬	チャノキイロアザミウマ	キラップフロアブル	2000 倍	21 日－2 回	混用可
	黒点病	エムダイファー水和剤	600 倍	90 日－2 回	

・ゴマダラカミキリの防除 下旬にモスピラン顆粒水溶剤㊞を 400 倍で株元に散布する。

・日焼け対策 ホワイトコート 50～100 倍 早生：7 月中旬 青島・中晩柑：8 月上旬。

・施肥 実肥 7 月中旬 （スルガ）スルガペレット 2 袋/10a
（ポンカン）新 FTES604 2 袋/10a

・早期摘果 着果量が多い樹は、樹勢の維持と来年度の収量確保のため、早期摘果を実施する。
特に樹の内側と地際の果実は、着色が悪く小玉傾向になるため優先的に摘果する。
また来年度の結果母枝を確保するために、7 月上中旬に樹冠上部 1/3 全摘果や枝別全摘果により夏芽の発生を促す。

・そうか病 そうか病多発園ではエムダイファー水和剤の代替として、ペンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤をそれぞれ 400 倍で散布する。

㊞ 注意：農薬購入の際は印鑑をご持参ください

苺（山森）

＜育苗＞ 親株肥培管理（メルコクアント試験紙で 500ppm 以上を推移しましょう。）

- ① IB 化成 S1 号の場合：親株 1 株あたり 10 日で 3 粒又は、14 日で 4～5 粒を施用する。
※給液チューブの場合は水のかかる場所に IB 化成があるように配置して下さい。
- ② 給液管理の場合：EC 0.5～0.6 を目安に給液。（7 月の目安：600～1,000ml / 株/日）
→ 灌水不足はランナー発生の減少に繋がります。培地が乾かない様に適時灌水して下さい
→ 培土や灌水チューブの種類によって灌水量や頻度が異なります。

1、育苗圃防除ローテーション（先月号の続きです）

時 期		薬 剤	RAC	倍率	主な対象病害虫
7 月	第 1 週 (28 日～4 日)	デラン（フ）㊞	M9	1000 倍	炭そ
		エコピタ（液）	－	100 倍	うどんこ・ハダニ・アブラムシ
	第 2 週 (5 日～11 日)	セイビアー（フ）	12	1000～1500 倍	炭そ
		アグリメック㊞	6	500～1000 倍	ハダニ
	第 3 週 (12 日～18 日)	ジマンダイセン（水）	M3	600 倍	炭そ
		エコピタ（液）	－	100 倍	うどんこ・ハダニ・アブラムシ
	第 4 週 (19 日～25 日)	ベルコート（水）	M7	1000 倍	炭そ・うどんこ
		グレーシア（乳）※	30	2000 倍	ハダニ・ヨトウ・アブラムシ・アザミウマ

※グレーシアは天敵放飼前日数 100 日以上なので早めに放飼する場合は注意が必要です。必要に応じて農薬の選定を行ってください。

2、採苗スケジュール

【栽培面積 10a で県平均定植数 6,500 本を定植する場合】

作業	時期	計画	必要本数
最終ポット受け	7 月中旬	1 株から 15～20 本程度採苗	定植本数の 1.2 倍程度採苗
切り離し予定日	8 月上旬	最終ポット受けから 20 日以上	しましょう。
定植予定日	9 月下旬	目標育苗日数：45 日程度	7,800 本 (内予備 1,300 本)

※温暖化の影響で、平地育苗では 10 月に入ってから定植となる方が増えています。育苗日数の長期化により根詰まり等（特に小型ポット）が懸念されますので、切離し時期は適宜調整して下さい。 例：10 月 1 日定植の場合→切離し 8/15～20 頃

3、炭疽病の発生対策

発生しやすい条件と感染対策

- ・高温多湿環境で発生が助長される。（20℃以上、適温は 28℃） 「ジメジメさせない！！」
- ①まず第一に作業開始前に怪しい株の除去をしましょう。（拡大させない！！）
→炭疽病と思われる株を触った際は必ず、手袋等を交換し鋏などの道具も再度消毒する。
→胞子は農薬散布により 500 cm 以上飛散、頭上灌水により 120 cm 程度飛散。
- ②点滴チューブ等を使用してソフトな灌水とする。（泥はね、水はねを防止する。）
- ③葉かきなどの作業は晴天日に実施する。傷口保護の為、作業の後には必ず薬剤散布をする。

4、高温対策

- ①妻面のビニールを外す等できるだけ開放し風通しを良くし、扇風機や循環扇を使い空気を動かす。
- ②遮熱、遮光資材、花芽分化促進ポットを利用しましょう。